

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12042

研究課題名(和文)慢性閉塞性肺疾患患者の包括的セルフマネジメント教育プログラムの構築と検証

研究課題名(英文)The implementation and assessment of a comprehensive self-management education program for patients with chronic obstructive pulmonary disease

研究代表者

若林 律子(Wakabayashi, Ritsuko)

関東学院大学・看護学部・准教授

研究者番号：20609359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：慢性閉塞性肺疾患(COPD)のケアでは、セルフマネジメント教育プログラムLiving Well with COPD(LWWCOPD)が11か国で使用されている。本研究では、LWWCOPDの日本語版「COPDライフ」を用いたセルフマネジメント教育プログラムの構築、検証を目的とした。「COPDライフ」の患者用、スタッフ用テキストを作成し、これらを用いたセルフマネジメント教育プログラムを実施することによって、患者のQOLや情報量が向上することが示唆された。一方で同じ医療者が一人の患者に継続的に指導していただくことの難しさやテキストの頁数が多いため、終了までに時間がかかることが課題として挙げられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、国内における慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者に対するセルフマネジメント教育の共通のツールはない状況である。本研究で作成した「COPDライフ」は、世界11か国ですでに使用されているセルフマネジメント教育プログラムLiving Well With COPD(LWWCOPD)を日本の文化などに合わせて翻訳し、さらにスタッフ用テキストも含まれる。本プログラムを用いたセルフマネジメント教育を行うことにより、特定の施設に通院するCOPD患者だけでなく、より多くのCOPD患者に同じ質の医療を提供することができ、COPD患者のADL、QOLの改善、緊急受診回数や入院回数が減少することが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The self-management education program Living Well with COPD(LWWCOPD), is currently in use in 11 countries for patients with chronic obstructive pulmonary disease(COPD). The aim of this study is to implement and assess LWWCOPD using the Japanese version, "COPD Life", which was adapted by the LWWCOPD Japan team. "COPD Life" was created to be used by both COPD patients and medical staff as a comprehensive self-management education program. Our initial analysis suggested an improvement in the quality of life and information regarding disease knowledge in patients was seen using "COPD Life". However, feedback also pointed out that the self-management program can be time consuming for the dedicated medical staff to continuously teach patients due to the large volume of program literature.

研究分野：慢性期看護学

キーワード：慢性閉塞性肺疾患 セルフマネジメント 患者教育

1. 研究開始当初の背景

WHOの報告では、慢性閉塞性肺疾患(Chronic Obstructive Pulmonary Disease: COPD)は2030年に死亡原因の第3位になると予測されており¹、日本では約530万人の患者がいると推定されている²。COPDの主原因は喫煙習慣であり、重症になると息切れのため、ADLと筋力の低下をきたし、さらに息切れが悪化するという悪循環を引き起こす。また、慢性疾患では軽度の感染症やストレス負荷で急激に悪化(増悪)・重症化することがあり、COPDにおいても増悪によって、疾患やADLが重症化するだけでなく、増悪による緊急受診や入院の医療費が大きな問題となっている。このような増悪を回避するために患者自身が増悪を早期発見・対応できるセルフマネジメント教育が有効であることが報告されている³。しかし、COPDのセルフマネジメントのための教育ツールは、国内においては共通のものはないため、医療機関や施設によって教育方法は異なっている。また、COPDを専門とする医師がいない地域も多く、地域によってセルフマネジメント教育の実施状況も異なっている現状である⁴。

海外におけるCOPDのセルフマネジメント教育では、カナダを含め、世界11カ国(カナダ、アメリカ、イギリス、フランス、オランダ、イタリア、スペイン、スイス、ドイツ、アイルランド、中国)でCOPD患者のセルフマネジメント教育プログラムLiving Well with COPD⁵(LWWCOPD)が使用されており、LWWCOPDのプログラムを用いてCOPD患者にセルフマネジメント教育を行うことによって、COPD患者のQOLの改善、緊急受診回数や入院回数の改善が報告されている⁶。各国で使用されているLWWCOPDは、国によって使用される薬や文化も異なるため、オリジナルであるカナダのLWWCOPDを翻訳するだけでなく、その国に合った最適なLWWCOPDが作成されている。日本においても、カナダのプログラムを翻訳しただけではなく、日本の文化に沿ったものを作成するため、医師、看護師、患者を中心に翻訳、検討を行い、日本に適したLWWCOPDとして患者用テキスト「COPD ライフ COPD とうまくつきあう～」を作成した。

一方で、同じセルフマネジメント教育プログラムを用いても、効果が得られるケースと得られないケースがあり、セルフマネジメント教育を提供する医療者がトレーニングを受けているかが影響することが報告されている⁷。わが国においては、患者用プログラムや書籍はあるが、医療者のマニュアルや研修プログラムはない。多くの施設で効果的なCOPD患者のセルフマネジメント教育を達成させるためには、患者用のプログラムだけでなく、そのプログラムを提供する医療者のマニュアルや研修プログラムが必要であることが喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究では、LWWCOPDの日本語版「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」効果的なセルフマネジメント教育プログラムの構築、を達成するために、LWWCOPDの日本語版「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」の検証、スタッフ用テキストの作成を行う。作成した患者用、スタッフ用「COPD ライフ」を用いて、セルフマネジメント教育を行い、多施設にてセルフマネジメント教育効果の検証を行う。

3. 研究の方法

(1) 患者用テキスト「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」の検証

各施設、患者会における患者10名程度に実際に「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」を用いて、用語の修正・統一、内容の確認を行う。

オリジナル版からの変更箇所について、LWWCOPD製作者のカナダスタッフと整合性の確認を行う。

(2) スタッフ用テキストの作成

患者用テキスト「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」を用いて、ロールプレーを行い、スタッフ用テキストに必要な内容を検討する。

オリジナル版LWWCOPDの研修を受け、スタッフ用テキストに必要な内容の確認、整合性を検討する。

(3) 「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」プログラムの検証

研究協力者らの施設において、患者用、スタッフ用「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」を使用し、アウトカムの検討を行う。

アウトカムは、1年間における緊急受診回数、入院回数、必要な肺の情報量の質問票(Lung Information Needs Questionnaire: LINQ)、MMRC、QOL(CAT)とする。

4. 研究成果

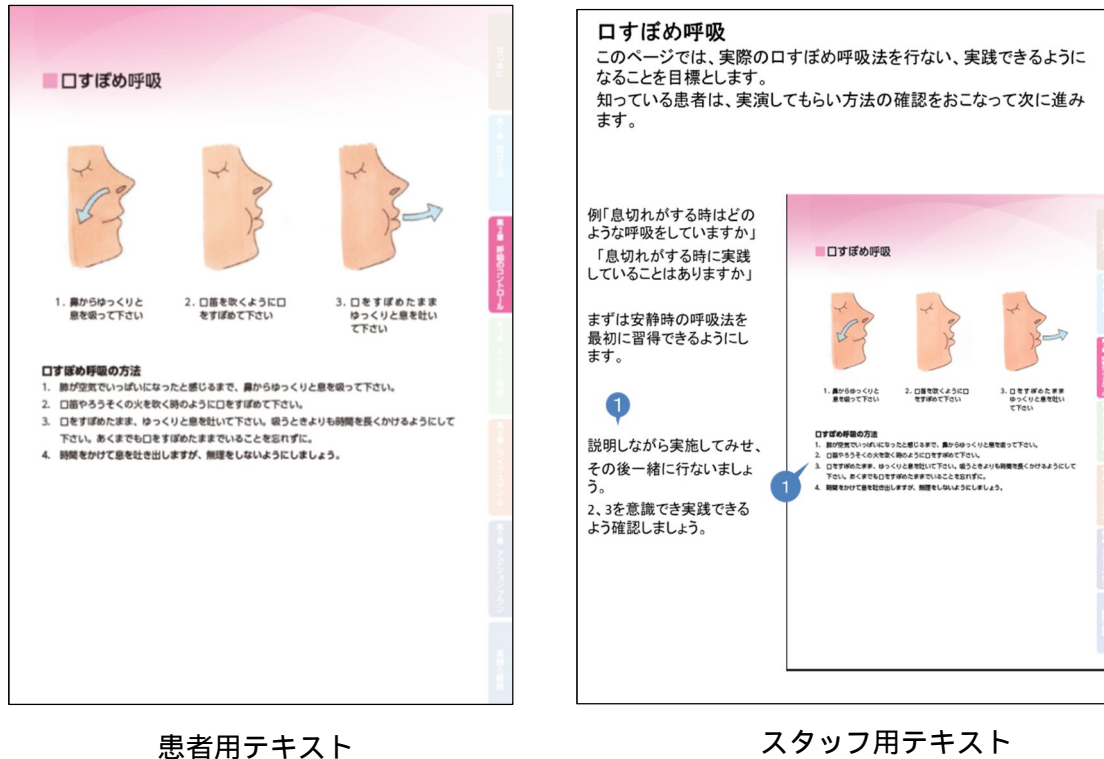
(1) 患者用テキストの検証とスタッフ用テキストの作成

本研究では、「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」の患者用テキストが完成し、実際に多施設における患者への臨床研究を行う段階で課題があがった。同じ患者用テキストを用いても、すべての研究協力者が同じ質のセルフマネジメント教育を提供できないことが明らかとなり、「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」を用いて患者にセルフマネジメントプログラムを提供するスタッフ用テキストの作成を行った。

作成したスタッフ用テキストを用い、ロールプレーを行い、見直し、修正、カナダのオリジナル版との整合性の検討を行った。

本研究にて作成した「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」の患者用テキストの一部とスタッフ用テキストの一部を図1に示した。

図1 「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」患者用テキストとスタッフ用テキスト



患者用テキスト

スタッフ用テキスト

(2) 「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」プログラムの検証

「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」を用いることによって、患者のQOLや知識量は向上することが示唆された。一方で「COPD ライフ～COPD とうまくつきあう～」の患者用テキストとスタッフ用テキストを用いたセルフマネジメント教育を患者に行う際には、同じ医療者が患者に継続的に時間を確保し、指導していただくことの難しさや患者用テキストが83ページと多いため、終了までに時間がかかることが課題として挙げられた。また、退院後と外来、病院と在宅などプログラム継続をどのように行っていくかが課題として挙げられた。スタッフ用テキストでは、ロールプレーなどを入れた研修を行っていく方が、テキストを読むだけの学習より医療者のセルフマネジメント教育の質を向上できる可能性が示唆された。

<引用文献>

1. World Health Organization. World Health Statistics 2008. http://www.who.int/whosis/whostat/EN_WHS08_Full.pdf
2. Fukuchi Y, Nishimura M, Ichinose M, et al. COPD in Japan: the Nippon COPD Epidemiology study. *Respirology*. 2004; 9: 458-465
3. American Thoracic Society / European Respiratory Society Task Force. Standards for the Diagnosis and Management of Patients with COPD. <http://www.thoracic.org/go/copd>
4. 日本呼吸器学会. 在宅呼吸ケア白書 2010. 文光堂. 2010
5. Living Well with COPD. <http://www.livingwellwithcopd.com> (password: copd)
6. Bourbeau J, Julien M, Maltais F, et al. Reduction of hospital utilization in patients with chronic obstructive pulmonary disease - A disease-specific self-management intervention. *Archives of Internal Medicine* 2003; 163:585-591
7. Bucknall CE, Miller G, Lloyd SM, et al. Glasgow supported self-management trial (GSuST) for patients with moderate to severe COPD: randomised controlled trial. *BMJ*. 2012; 344: e1060

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 若林 律子	4. 巻 27
2. 論文標題 患者教育-人間らしい在宅生活をめざした慢性呼吸器疾患患者の教育・支援-在宅に向けた院内患者教育とアクションプラン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	6. 最初と最後の頁 119-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15032/jsrcr.27.2_119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 若林 律子	4. 巻 26
2. 論文標題 在宅に向けた自己管理教育	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	6. 最初と最後の頁 446～450
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15032/jsrcr.26.3_446	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 若林 律子
2. 発表標題 呼吸ケア・リハビリテーションの質向上をめざして COPDのセルフマネジメント
3. 学会等名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ritsuko Wakabayashi , Jean Bourbeau , Danielle Beaucage , Maria Fernanda Sedeno , Takashi Motegi , Kumiko Hattori , Yuji Kusunoki , Tomoko Kutsuzawa , Tetsuya Urano , Kozui Kida
2. 発表標題 Multi-Center Comparison Using an Information Needs Questionnaire in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease
3. 学会等名 American Thoracic Society（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 若林律子, 楠裕司, 服部久弥子, 茂木孝, 古舘隆子, 伊藤亜紀, 木田厚瑞
2. 発表標題 酸素療法実施のCOPDにおけるセルフマネジメント教育の強化:LINQによる検証
3. 学会等名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 町田千晴, 若林律子
2. 発表標題 COPD患者へのセルフマネジメント教育の現状に関する調査
3. 学会等名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Living Well with COPD http://www.livingwellwithcopd.com/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長谷川 智子 (Hasegawa Tomoko) (60303369)	福井大学・学術研究院医学系部門・教授 (13401)	